

仙臺郷土研究

復刊第46巻第2号 (通巻 303号)

東日本大震災発災一〇周年忌 特集号

令和三年(二〇二一)十二月二十日印刷
令和三年(二〇二一)十二月二十二日発行



東松島市震災復興伝承館



震災遺構のプラットフォーム

令和3年(2021)12月

仙 台 郷 土 研 究 会

「仙台市史」好評発売中!



市制100周年記念事業として編さんが行われた『仙台市史』は、原始から平成元年に仙台が政令指定都市となるまでの事象をあつかい、最新の研究成果を盛り込んだ内容になっています。

「通史編」9巻のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」13巻、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」9巻に、「年表・索引」1巻を加え、全32巻を刊行しています。

- ◆通史編 原始、古代中世、近世1～3、近代1・2、現代1・2
- ◆資料編 古代中世、近世1～3、近代現代1～4、
仙台藩の文学芸能、伊達政宗文書2～4
- ◆特別編 自然、美術工芸、市民生活、板碑、民俗、城館、
慶長遣欧使節、地域誌
- ◆年表・索引

※「資料編 伊達政宗文書1」「特別編 考古資料」は完売しました。

※価格(税込)

通史編 3,143円 / 資料編 4,191円
 特別編 6,285円 (『板碑』のみ 5,238円)
 年表・索引 2,200円

お求めは：(株)宮城県教科書供給所
 〒983-0034 仙台市宮城野区扇町1-6-3
 TEL：022-235-7181 FAX：022-235-7183

仙台市博物館休館のお知らせ

仙台市博物館は、令和3年10月1日から令和6年3月31日(予定)まで大規模改修工事のため休館しています。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

問い合わせ先：仙台市博物館 TEL：022-225-3074

仙台藩忍者・鹿又戸兵衛

～質問紙調査及び関連情報から見えた実像～

小野寺 恭子

一、はじめに

黒脛巾組については鹿又戸兵衛の墓碑が発見できた^①ものの、文献情報については依然として著しく不足しており、調査手法を工夫する必要があると考えていた。本稿では黒脛巾組の鹿又戸兵衛についての質問紙調査を実施した結果と新たに発見できた事柄、報告されている事例を総合的に俯瞰し、鹿又戸兵衛の実像に迫りたい。

二、参考調査

戦国の武将たちは情報収集に全国を遊歴する一般僧、修験者、占師などなんでも利用していた^②ことが知られるため東北に特徴のある職人に着眼し、こけしと木地師の関連性を探る中で、比較的近年に行われた調査を発見することができた。東近江市はこけしなどの木工品を加工、製造する職人である「木地師(きじし)制度発祥の地」として長い歴史があり、

平成二十九年には「平成の氏子駆・氏子狩復活事業」の一貫として木地師と関連があると考えられる市民へのアンケート調査^③を全国的に行っている。木地師は全国に組織を持ち、歴史の中で多々の情報を拾っており、戦国時代の裏山の道、隠れ地、家、浄土真宗との関係、各藩それぞれが木地師を利用したとの自由回答が北海道からも記録されており、忍者との関連性が否定できない可能性が残されていた。今回、この調査の手法を参考にし、鹿又戸兵衛についてのアンケート調査を実施した。

三、アンケート調査について

① アンケート調査概要

- (ア) 目的…宮城県太白区西多賀に伊達政宗の忍者・黒脛巾組の鹿又戸兵衛の墓碑があることから、忍者に関する事象でご存知のことがないかを調査するために実施
- (イ) 対象者…宮城・福島・東京の「かのまた姓」・「くろは

アンケートの送付先

実施時期 令和3年6月

都道府県	エリア	姓	件数	合計
東京都	23区外	鹿又	2	7
	23区内	鹿又	4	
福島県	田村市	鹿又	1	41
		鹿又	32	
		鹿又	5	
		鹿又	4	
	二本松市	鹿又	10	12
		鹿又	2	
	南相馬市	鹿又	3	3
	相馬市	鹿又	9	9
	双葉郡	鹿又	3	3
	須賀川市	鹿又	1	1
	白河市	鹿又	2	2
	西白河郡	鹿又	1	1
	石川郡	鹿又	7	7
	いわき市	鹿又	1	3
		鹿又	2	
	郡山市	鹿又	5	5
	伊達市	鹿又	2	2
		鹿又	1	
	福島市	鹿又	4	5
		鹿又	1	
相馬郡	黒脛巾	6	6	
宮城県	宮城郡利府町	鹿又	2	3
		鹿又	1	
	黒川郡	鹿又	8	8
	富谷市	鹿又	3	3
	多賀城市	鹿又	1	1
	塩竈市	鹿又	1	1
	石巻市	鹿又	1	7
		鹿又	3	
		鹿又	1	
		鹿又	2	
	大崎市	鹿又	1	1
	亘理郡	鹿又	5	5
	柴田郡	鹿又	3	3
	角田市	鹿又	1	1
	名取市	鹿又	18	18
	白石市	鹿又	4	4
	仙台市	鹿又	23	30
		鹿又	5	
		鹿又	2	
	合計			193

仙台藩忍者・鹿又戸兵衛

アンケート結果

アンケート内容		回答数	割合
質問	「黒脛巾組」を知っていましたか？		
質問 1	・知っている	4	9%
	・知らない	37	84%
	・聞いたことはあるが詳しく知らない	3	7%
質問 2	伊達藩忍者「鹿又戸兵衛」のことをご存知ではないですか？		
質問 2	・知っている	2	5%
	・知らない	37	84%
	・聞いたことはあるが詳しく知らない	5	11%
質問 3	大正時代から昭和時代初期にかけての仙台市長「鹿又武三郎」は鹿又戸兵衛の子孫であることがわかっていますが、鹿又武三郎氏について何かご存知ではないですか？		
質問 3	・知っている	2	5%
	・知らない	37	84%
	・聞いたことはあるが詳しく知らない	5	11%

自由記載欄より (抜粋)

エリア	回答
福島県	<ul style="list-style-type: none"> 鹿又の名は宮城県、福島県に多く伊達政宗の家来らしく、詳しくわからない。福島で結婚式など集まる時は鹿又姓が30~40名集まる。石巻線鹿又駅の冊子同封。 伊達藩忍者について名称は知っていたが「鹿又」の家系については、当家は分家の分家なので詳細わからない。田村市内に「鹿又」の地名がいくつかあり「鹿又神社」が戦国の頃、城だったということを以前読んだと記憶している。 先祖が伊達家に仕えた立派な人だったと聞いた。7年前戸兵衛大明神に行き近所の方にお礼を言ってきた。先祖に間違いないと直感。鹿又家は仙台より福島県、現在の平田村に移住してきたようだ。当時平田村に大きなお城のような屋敷があったそう。現在も石垣は残っている。鹿又家の家紋「丸に五三の桐」は伊達家から頂戴したとのこと誇りに思っている。家系図あったようだが、所在不明。新聞に掲載されたようだが時期も不明。 「鹿又」姓は(旧)安達郡岩城町、(旧)田村郡大越町、石川郡平田村大字小平などに分布していた。郡山には12軒の「鹿又」が。福島県南に散在した鹿又姓はいずれも山間部であり二本松市の霞ヶ城から遠いため関係があるかわからない。 父親の生まれは福島県相馬市で鹿又家が数十軒あることは聞いていた。 ニクツキの股とルーツが異なると思う。祖父から聞いた話だと、福島県の山奥の出のようだ。鹿又の角の形状に似た、沢の上流部の本流、支流の交わる地がその名の由来のようだ。 資料同封。「鹿又」という姓氏の由来は岩代国田村郡(福島県安積郡)神保邑より起る。田村家の家臣にして城戸氏の族助隆を親とする。仙道表鏡に「鹿之侯城」には鹿侯彦次郎立巻もり、岩城勢を拒げけるも天正17年3月敢えなく開城す」と見ゆ。また神保に作る老人物語に「小野鹿侯の城主神保久四郎は三春の家来にて岩城の猪狩り下野と申す者取り詰め私談を入れ候時久四郎は城を退き伊達方へ参り候」とあり。おそらく「伊達方へ参る候」から考えると、郷土内には武士社会を知ることのできる遺跡がある。(鹿又家の家系・出典不明) 黒脛(くろはばき)との辺りでは書いている。伊達藩ゆかりの神社からの資料コピー同封。「片倉小十郎景綱は神官の子で19歳の時梵天丸政宗の守役になった。米沢の修験者は全国どこでも行け、関所も自由に認められのちに国老として活躍。輝宗の死後殉死。修験者は全国どこでも行け、関所も自由に通行できた。羽黒、聖護院、熊野などの違いはあれど全国に情報網を持っている。景綱がこの情報網を活用したことが推察できる。」(高倉淳・仙台郷土研究会)
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> 祖母からは先祖は仙台からの「落武者」とは聞いたことがあるが、今となっては祖父母も父も亡くなり、知ることができず残念だ。 武士であるとは聞かされていたが忍者であったことは知らなかった。 先祖の中に鹿又武三郎がいて、仙台市長だったと聞いたことがある。父の本家である家のほうの先祖ではないだろうか。先祖は西多賀3丁目付近で土地を広くに所有、山形から職人を数人使用し左團扇で豪華な暮らしをしていたと聞いたことがある。昔は宗神寺に毎年墓参りに行った。父方の祖父や叔父の名が確認できた。長町あたりに「黒ばたばあちゃん」という親戚がいたと子供の頃に聞いた。関係があるかは不明だ。 平成2年に94歳で亡くなった祖母からも今まで聞いていたことがない。 祖先は関西方面からやってきたことは知っていたが忍者のことは聞いていなかった。 ご先祖が伊達藩に仕えていたと父から話では聞いていたが詳細は不明。家系図や記録はない。自家の位牌では寛政9年、文化14年の記録があり、代々の墓は泉区小角の大満寺。大満寺は、伊達藩二代藩主忠宗公に仕えた家老古内重弘公と家臣の墓が建立されている。寺では昭和50年頃に個別墓石は撤廃しており現存しない。地区に祀られていた墓石も数年前に供養撤去しており、刻まれていた文字も残されていない。 鹿又武三郎氏は西多賀にお住まいであることは子供の頃に聞いていたが、先祖のことは知らなかった。私の鹿又家系は、仙台藩家臣録に載っている鹿又友治や仙台藩家臣録の編集に協力した鹿又軍記(北三番丁)が先祖であり、西多賀の鹿又家の家系とは関係がない。

ばき姓」の方々を対象にNTTハローページ(二〇二〇年)の電話帳に記載された情報を活用し一九三人を抽出
 (ウ) 回収結果…回答数・四四件 回収率・二十三% 住
 所尋ね当らず・七件 受取拒絶・一件

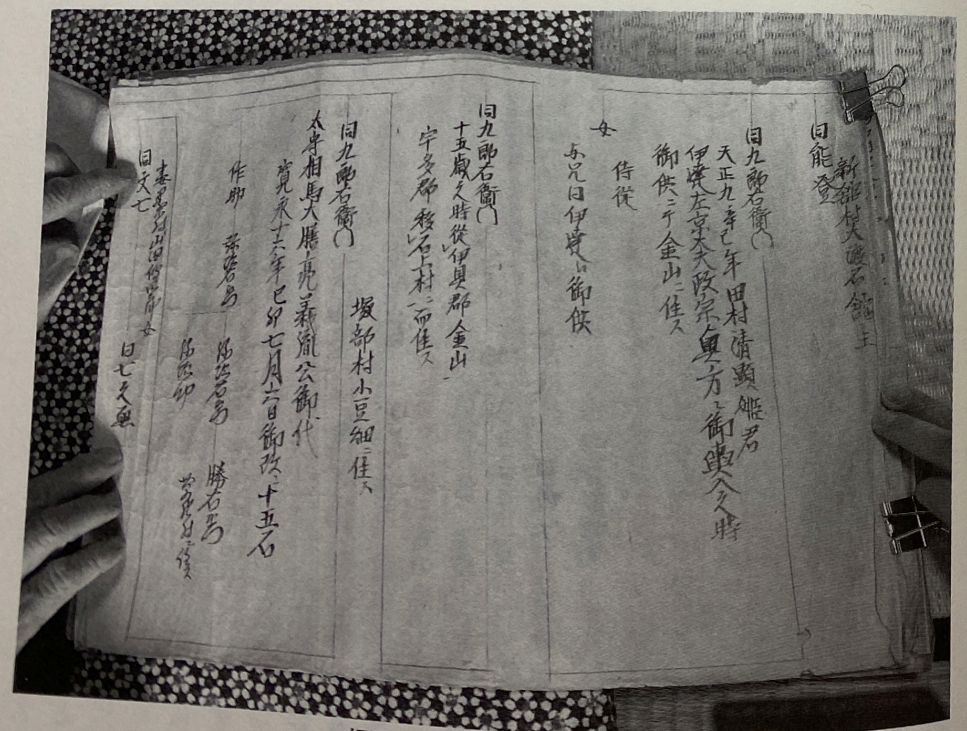
この結果から、「かのまた姓」・「くろはばき姓」の方々に
 おかれてもなお、黒脛巾組のことを知っているという方はほ
 いがないということが明らかになったが、自由記載欄に回答
 を得、情報収集を行うことができた。
 これらのアンケート調査の返送結果からは、はっきりと忍
 者に関係する情報、また自分が子孫であるといった回答は得
 られなかった。しかしながら更にヒアリングを行うことがで
 きた情報について、以下に記録を補完する。

四、追跡ヒアリング

① 相馬市・愛姫に関係する先祖

田村から愛姫に着いていった鹿股が先祖で、家系図がある
 とのことで見せていただいた。相馬第十五代藩主盛胤の時代
 ④。「鎌倉権五郎景政が祖。一五七九年(天正七年)政宗十二歳、
 愛姫十一歳。九郎右衛門十五歳御供にて金山に住す。天正九
 年塚部小豆畑に移住、九郎右衛門十七歳。」と記述されてい
 る(九郎右衛門が相馬の愛姫に御供したと書かれている)。

鹿又戸兵衛の祖父である鹿股八郎兵衛を祖とする鹿股家は
 仙台藩忍者・鹿又戸兵衛



相馬市 鹿股氏家系図

伊達家累世の家臣で、伊達郡大石村に住み、八郎兵衛の子九郎兵衛は、伊達政宗の代に相馬の戦で軍功をあげている（同家は経房の代に鹿又に改めた）^⑤ことから、愛姫に御供した相馬の九郎右衛門も伊達家との関連があり、繋がりがあるのではないかと推察するが、関連性の証拠までは見つけられなかった。

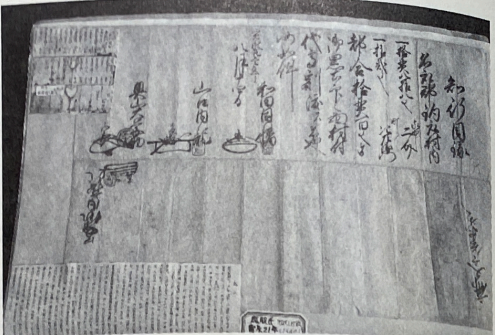
② 仙台市・鹿又武三郎を輩出した寺子屋と墓碑

仙台市にお住まいの方から、旧鉤取村には一八三七年（天保八年）から明治三年に鹿又武三郎が出ていた寺子屋があり、慶応三年の調査では、藩士・鹿又勇五郎・藤原直清を先生に門弟は二十六人だった^⑥と教えていただいた。この方は勇五郎の遠い親戚にあたり、鉤



鶴田しを氏の自伝：雑草には終わりが無い

取の遠い親戚にあたり、鉤取の鉤取寺が菩提寺であるが昔は宗禪寺にも墓参りに行った記憶があるとのこと。武三郎の父である鹿又璇璣は宗禪寺に葬られている^⑦。宗禪寺には現在、鹿又家の墓碑が七箇所あり、鹿又武三郎の墓は確認できなかったものの、鹿又勇五郎・藤原直清のものが確認できたとのことで、鹿又戸



鹿又戸兵衛の名取郡鉤取村の知行目録

は、伊達世臣家譜、仙台藩家臣録の記述と合致すること。知行録の存在そのものから、鹿又戸兵衛は藩士として振舞い、言い伝えられてきたが故に、黒脛巾としての鹿又戸兵衛を知っている人がいないという仮説が成り立つのではなからうか。もしくは、多くの秘密を知り得る立場故に意図的にそのように振る舞った

という可能性も考えられる。

六、 国際忍者学会関係者の研究成果

① 他地域における事例

近年ではより体系的な忍者研究が進められてきており、信州における黒脛巾の記録も発見されている。忍者研究の第一人者である山田雄司氏は「松江の忍者の調査をしている時、「黒脛巾」を見つけた。松江藩主、松平直政の事跡について記した「藩祖御事蹟」という記録には、「黒脛巾頭」および「黒脛巾」という人物名が記され、大坂の陣において敵の首級をあげたことが記されている。（中略）黒脛巾といえは、伊達家

仙台藩忍者・鹿又戸兵衛

兵衛の子孫の枝分かれた家系の何処かには鹿又武三郎の名前が確認できるのではないだろうかとの見解をいただくことができた。

③ 大和町鶴巣・自伝

武三郎の孫、鶴田しを著「雑草には終わりが無い^⑧」という本を大切に持っているという方にその本を見せていただくことができた。鶴田氏については遠い親戚なのではと思っいるが、詳しいことはわからないとのこと。本には忍者についてのこととは全く書かれていないが、昭和五十七年三月三十一日に発行された鶴田氏の自伝であり、あとがきには「四人の子等をどうにか育てあげ（中略）或る夜の息子達との語らいの中の、私の生きざま、農村生活、環境、自然、人情、行事、遊び等の主なものを集録しよう」と決意し、「かたことから、子孫の方の中には姓が変わり、今回の「かたまた」姓の調査範囲に含み切れていなかった方も少なくないと推察する。

五、 新たに知り得た情報

① 鹿又戸兵衛の知行目録

本研究会の本田勇氏よりご連絡をいただき、鹿又戸兵衛宛の知行目録をお持ちであるとのことと拝見することができた。寛永二十一年八月十四日のもので、発給者は出入司四名。各々黒印と花押が付され、知行高は十貫百文（百一石）の記述

に使えた忍者として知られているが、直政もそうした人々を使っていたのである。そして「黒脛巾トイフ者今藩中ニ無レハ、詳ニ知り難シ」とあることから、黒脛巾は合戦の時だけ組織され、平時になると解散したようである。^⑨と松江における「黒脛巾」の事例を記事にしている。

② 近年の研究発表から

また、平山優氏の忍者に関する研究では、村町の人々を「野臥」「野伏」として、戦国大名が動員することもあった事例を紹介し^⑩、その中で陸奥伊達氏は、陸奥国刈田・伊達・信夫郡の郷村や町の百姓や町人、さらにその名子・下人などを台帳に登録する『野臥日記』を作成し、合戦時に彼らを動員していた^⑪ことを引用している。

鹿又戸兵衛は幼い時には親戚の伊予宇和島藩の桜田玄蕃に倚食^⑦していたことから、より広域の研究報告等にも目を向けていきたい。

七、 考察

いまだ謎の多い黒脛巾組を指揮していたとされる鹿又戸兵衛は、慶安三年九月十八日にその生涯を終えた^①。今もしずかに残る墓碑の存在が三七〇年の時を超えて、仙台藩の忍者は決して証拠を残していないということを我々に伝えているのではないだろうか。

今回、その墓碑の発見から黒脛巾組、特に鹿又戸兵衛について調査を実施するに至った。忍者としての鹿又戸兵衛を知る人はいなかったことから、黒脛巾としての活躍の裏で多くの秘密を抱えながら晩年は仙台藩士として生活し、黒脛巾として携わった任務や自らの素情を隠していたのではないかという仮説が導き出される結果となった。

今回、仙台藩忍者に関する質問紙調査のご協力を多くの皆様にいただいたことで得られた回答は貴重な発見となった。今後も他地域での調査結果なども参照しながら幅広い視野で情報を収集し、忍者への畏敬の念を持ちながら黒脛巾組の実像に迫っていききたい。

最後になったが、この小文を作成するに当たり、ご協力をいただいた皆様に、貴重な情報をご提供いただいた事へのお礼を申し上げます。

【註】

- ① 小野寺恭子「黒脛巾組の基礎研究仙台藩に忍びが存在した可能性の追求」『仙臺郷土研究』通巻三〇一号、十七頁～二十二頁、令和二年十二月
- ② 大林昭雄「仙台藩の情報収集」『伊達忍帳控』ギャラリイ大林、九頁、平成十八年

〈史跡見学会報告〉

「松島町の三霊廟と
五大堂を尋ねる」

成田正憲

宮城県の「まんえん防止等重点処置」が解除され、十月一日から通常営業が可能になり、しかし、「リバウンド防止徹底期間」が県内全域に適用されている十月二日、会員と一般の方を含めて三十三人の参加を頂き、台風一過の好天の下、江戸時代、松島町に建てられた「瑞雲峰定照殿」・「白華峰三慧殿」・「萬歳峰寶華殿」の「三霊廟」と、古代からの祈りを伝えてきた「瑞巖寺五大堂」を巡った。

一、「定照殿」(天麟院五郎八姫霊廟)

瑞巖寺中興の祖雲居禪師によって五大堂の近くから遷された日吉山王神社(慈覚大師建立伝承)が建つ丘の東隣、標高二十五m程の瑞雲峰に葬られた天麟院五郎八姫の墓所に建てられたのが「定照殿」である。「五郎八」と書いて「いろは」と読ませる姫は、政宗公と正室愛姫(めこひめ)の第一子で長

「松島町の三霊廟と五大堂を尋ねる」

- ③ 東近江市企画部企画課「平成の氏子駈・氏子狩復活事業から見えてきた木地師組織と文化」
<https://www.city.higashiomishiga.jp/cmsfiles/contents/0000007/7530/kijish2016report.pdf> 平成二十九年二月
- ④ 「榎木の今昔」『榎木自治会』九頁、平成十九年
- ⑤ 角川書店「第二部 姓氏編」・「鹿又・鹿股 かのまた」『角川日本姓氏歴史人物大辞典 四』五八四頁、平成六年
- ⑥ 関根一郎「西多賀における寺子屋とその教育」『西多賀郷土史物語』松木産業株式会社、一一〇頁、昭和五十二年十二月十日
- ⑦ 菊田定郷「カノマタトヘエ」『鹿又戸兵衛』『仙台人名大辞書』二六五頁、昭和五十六年
- ⑧ 鶴田しを「雑草には終わりが無い」若林印刷所、昭和五十七年三月三十一日発行
- ⑨ 山田雄司「忍者へのいざない」『思索のノート』信濃毎日新聞、令和二年三月二十八日掲載
- ⑩ 平山優「戦国時代の忍びの実像」『忍者研究』三号、一頁～十三頁、令和二年八月
- ⑪ 遠藤ゆり子「『伊達天正日記』所収「野臥日記」の一考察―政宗による民衆の軍事動員を考えるために―」『市史せんだい』二十七号、二〇一七年



五大堂前にて